

南琉球方言におけるベシ由来形の分布とその圏論的解釈

中日理論言語学研究会 (2015/04/26)

金田章宏

はじめに

この報告は、科研費「南琉球方言におけるベシ由来形の記述的研究(G24520493) (H24. 4. 1～H27. 3.31 代表者；金田章宏)」による調査結果をもとにしたものである。

西表島祖納方言の特定の文の述語にあらわれる **be:** という要素がどのような意味用法をもち、どのような分布をしめすのか。それは古代語のベシと関わるのか否か。現地調査によってそれをあきらかにすることがこの科研の目的である。

結論として、南琉球方言にみられる **be:** や **bjɑ:** は、東日本方言の推量や意志、勧誘にみられるべーなどと同様に、そして、かつてネフスキー(1926)が指摘したように、古代語のベシに由来するもの、ベシ由来形であることを確認する。また、その分布は宮古地域を中心としていて、八重山地域では西表島にしかみられないという、興味深い分布であることがわかった。

1. 先行研究

琉球諸方言のなかで、ここで対象にしようとする語形、形態素を積極的にとりあげた論考はこれまでのところみあたらない。ネフスキー(1926)が、宮古島^{ひらら}平良のアヤゴ(歌謡全般をさす)の例をあげながら、そこに使用されている **b^εa:ŋ** について「日本語の「べし」と同じ語根の言葉らしい」としているのが、古代語の意志・推量ベシとの関連を指摘した唯一のものである。あげられた例は以下のとおり。

ja: munu· b^εa:ŋ ujata· b^εa:ŋ (きっと) 家の者だらう、親達だらう (と思ひ) (p.44 アヤゴの本文)

b^εa:ŋ (平良 **b^εa:m**、多良間^{たらま}**be:m**。 **b^ε** を以て半中舌的の **b** を表したものである。 **b^εa:ŋ** / **b^εa:m** は **bæ:m** と殆ど同じく響くのである。) は、日本語の「べし」と同じ語根の言葉らしい (p.54 本文の解説)。

右の **b^εa:m** (**be:m**) の例 (をつぎにあげる：引用者注)、

ʔo:s'a. ari:wa:lm be:m (多良間語) 「達者で居らしやるでせうね」 (目上の人に対して、面会の時に述べる挨拶)

uputu: b^εa:m mnatu b^εa:m tumiribadu 「海原でせう、港でせうと捜して見たが」

b^εa: に感嘆詞の **ja:** を付けて言ふ事は一番よく聞く事である。例へば

mm'amaddam·b^εa:ja: 「お出になりませんでしたか」

ansi: ·b^εa:ja: 「さうでせうか」

ssamatam-b^εa:ja: 「お分かりになりましたんでせうか」

nakazuni-sanna ja:ndu ura:zb^εa:ja: 「仲宗根様は家に居らしやるでせうか」(p.55 本文の解説)

(平良) ans' i-nu tukurunmai psitu-nu uz-b^εa:ja: 「そんな処にも人が居るでせうかな」(p.57)

与儀達敏(1934)は疑問をあらわす助詞としてビヤ- (bja:) とビヤ-ム (bja:m) をあげ、注で m をともなう「「ビヤ-ム」は尊敬の意を伴ふ」(p.75)としている。この m は m 語尾形のなごりとみられるものである。

船か フニビヤ- funi bja:

働くか パタラキムビヤ- patarakim bja:

船ですか フニビヤ-ム funi bja:m

働きますか パタラキムビヤ-ム patarakim bja:m

平山輝男(1983)は池間方言の例として、ティガミヤ- ティドゥーイ ビヤ-ンニ (手紙は来ていますか)、シウトウミドゥ イフタイビヤ-ンミ (一緒に行ったかなあ)、多良間方言の例として、ヤドゥヤ- アムベ-ム (宿屋はございますか)、伊良部長浜方言の例として、クーディビヤ-ン (来んだって?) をあげる。これらにみられるニやミ、ムは m 語尾形のなごりとみられるものである。

多良間方言についてはさらに助動詞の項の(7)ベ-ム (います<ヲリ+アリ>) の説明で、

「ベ-ム [be:m] はおそらく「ヲリ+アリ」が融合変化したものであろう。それが補助動詞的に用いられたものと考えられる。「ヲリ」に対応する八重山方言ベ-ン [be:n] (いる) の要素を示すものとして注目されるものである。」(pp.247-248)

としてつぎのような例(抜粋)をあげ、

「ほとんど語形交替を示さず、文末に現われる点で終助詞的な職能に接近しているように思われる」としている。(p.248)

クマンヤ ヤドゥヤ アンベ-ム (ここに宿はありますか)

ンナマー ジャ-ヌ アキ-ンベ-ムラー (今は座敷が空いていますでしょうか)

ティプンヤ ネ-ンベ-ム (手本はないでしょうか)

このベ-ムについてはさらにつぎのようにものべている。

「話者の報告によると(6) (引用者注: 上記(7)のまちがい) で示したベ-ム [be:m] には尊敬の意味があるというが、現在のところ共通語に対応する語を示すことができない。話者によれば、島外から偉い人が来た場合にワ-ルベ-ムシウ (よくいらっしやいました) と挨拶し敬意を表するという。」(p.248)

このように、与儀、平山ともにビヤ-ム、ベ-ムに尊敬の意味があることを指摘しているが、少なくともこれまでの調査では、これらに尊敬の意味があるというコメントはえられていないし、与儀のあげる 2 形が共存する地点も確認できていない。

『言語学大事典』(1989)の「琉球列島の言語(宮古方言)」では、平良方言の一般たずね形の例としてつぎの例をあげている。

sinsi:mai sakju: numbja:? 「先生も 酒を 飲むのだろうか」

nkja:nnu pɾ to: pannumai fo:taɾ bja:? 「昔の人はパンも食べたのだろうか」(セレクション p.396)

富浜定吉は『宮古伊良部方言辞典』(2013)の語彙項目に「びゃー bja:[助詞]～だろ。～ではないだろうか。「びゃーん」ともいう。」として「やんびゃーていーどう、かなしゃびゃーていーどう・・・(あなただろ、いとしのあなたではないだろうかと・・・)」「やらびびゃーていーうむーていーがー(<まだ>子どもだろと思っていたら)」の例をあげる(p.599)。また文法項目の「形容詞の活用形」に長浜・佐和田方言、国仲方言、佐良浜方言の例として、「この井戸は深いだろうか」(~びゃーんみ)、「美しくはないだろうか」(~びゃーんみ)、「この着物が美しいだろ」(~びゃーんみ)の例をあげる (pp.847-850)。

2. 宮古諸方言における使用実態¹

以下、地区ごとにのべたて(つたえ、たずね)、うたがい、はたらきかけ(意志、勧誘、すすめ、依頼、命令)の順に例をあげる。例はベシ由来形が使用されればそれを中心にあげるので、あげられた例がその用法における基本的な例であるとはかぎらない²。ベシ由来形があらわれた項目名はゴチックにし、その語形には下線を付した。

2. 1 池間島方言

2.1.1 つたえ

断定；太郎きょうはビールを飲むよ。taɾo: [kju:]=ja [bi:]ru=jɯ numaq=do:.

推量；きょうは太郎は酒を飲むと思うよ。kju:]=ja [taro:]=ja s!aki=u {nuN haq=[do:./ [nuN]=bia:n [i:.]}

2.1.2 たずね

断定；きょうの夜、酒飲む？ kju:=nu jusarabi] s!a[ki] numa[di?

¹ 以下で、] と [はイントネーションまたはアクセントの下降と上昇、! はつぎの母音の無声化をしめす。複数の語形等がでたところは {A/B} のように示した。表記はそれぞれの地区のなかでは統一しているが、本稿全体としては統一していない。

本稿で使用する用語のうち、「たずね」は話し手にとって未知の情報を聞き手に質問し答えをもとめるもので、疑問詞のありなしがある。「うたがい」は自分では答えのさせないことがらを自分に問う、聞き手を必要としない独話的なもので、同様に疑問詞のありなしがある。ただし、推量の「たずね」に使用される文が内言的に話し手自身に対する質問に使用されることもあれば、「うたがい」に使用される文が間接的に聞き手への質問に使用されることもある。「たずね」を「質問」、「うたがい」を「疑問」としてもよいのだが、一方にこのいずれにもかかわる「疑問詞」の存在もあるので、「疑問」は疑問詞にのみ使用した。その関係で和語「うたがい」に対応させて「たずね」を使用し、「たずね」とともに「のべたて」を構成するものとして「つたえ」を使用した。

² 南琉球方言の述語のモダリティーを中心とした記述については稿をあらためたい。

断定疑問詞；あなた、なにを飲む？ vva] nau=ju nu[ma]di=ga?

推量；太郎はあの酒を飲んだらどうか？ ta[ro:]=ja ka[nu s!akju: nu[N]tai=bja:ŋ [i:]?

推量疑問詞；太郎はどんな酒を飲むだろうか？ ta[ro:]=ja [iNsi=nu s!akju:] [nuN=ga i:]?

2.1.3 うたがい

疑問詞なし；太郎は酒を飲むかなあ。ta[ro:]=ja s!a[kju:] =gja: {nu[ma]di=bja:ŋ [i:] / [nuN=bja:ŋ [i:] / [nuNdu su=bja:ŋ [i:] }

疑問詞あり；太郎はきょうはなにを飲むかなあ？ ta[ro:]=ja [kju:] =ja na[u=ju nuN=ga [i:]?

2.1.4 意志（択一以下は、純粹な意志ではない³。以下おなじ。）

疑問詞なし；のどがかわいたからお茶を飲もう(かねえ)。{nu[du: / nu[du=nu} ka:ki] uiba [cja:=ju] numadi(=bja:ŋ [i:]).

選択択一；ビールかなあ。酒かなあ。bi:ru]=bja:ŋ [i:] s!aki]=bja:ŋ [i:]。(動詞の例がえられなかった。)

選択肯否；きょうは酒を飲もうかな。kju:] =ja s!a[ki=u] nu[ma]di=bja:ŋ [i:].

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうかな。kju:] =ja na[u=ju] nu[ma]di=ga: [i:].

2.1.5 勧誘（択一以下は、純粹な勧誘ではない。以下おなじ。）

疑問詞なし；これをいっしょに飲もうかねえ。uru: h!litumi numadi=bja:ŋ i:].

選択択一；「太郎」を飲もうかねえ、「瑞光」を飲もうかねえ。taro: numadi=bja:ŋ i:] zuiko: numadi=bja:ŋ i:].

選択肯否；きのうもいっしょに飲んだけど、きょうも飲もうかねえ、やめようかねえ。h!unu=mai h!litumi numtaisuga kju:=mai numadi=bja:ŋ i:] numadja:N=bja:ŋ i:].

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうか。kju:] =ja [nau numadi.

2.1.6 すすめ

もっと飲んだら？ N[mja]pi nu[mi jo:]. / nu[mi=hai.

2.1.7 依頼

これを飲んでくれ。u[ru: nu]mi: [hwi:ru.

2.1.8 命令

さあ早く、飲め。qta]ti: numi([jo:].

2.1.9 ベシ由来形の意味用法と接続について

池間島方言では疑問詞のない推量、うたがい、意志、勧誘の全般にわたって使用される。=bja:ŋ が使用されるが、この ŋ は宮古諸方言にみられる m 語尾形の m 語尾のなごりとみられるものである。このあとに終助辞 i: をともなう文を終止するのを基本とする。はたらきかけでは意志=勧誘形の numadi に接続しているが、のべたて非過去では動詞のばあい numadi のほかに nuN や分析形 nuN=du su にも接続している。

³ 意志形や勧誘形は、基本的には行為遂行の意志や勧誘（の決定）をあらわす語形である。それに対して、選択表現はその前後、つまり、「選択肯否；しようか、すまいか」→「決定；しよう」→「選択択一；どれにしよう」という流れの「決定；しよう」の前後である。

2. 2 ^{おおがみ}大神島方言

2.2.1 つたえ

断定；あいつはきのうも酒を飲んだよ。 kare:] k₁nu=mai saki:=[pa] nu]mitu.

推量；酒を飲まないんじゃないかな。 saki:=[pa:] numaN=pe:m.

2.2.2 たずね

断定；あなたきょうは酒を飲む？ vva] ki:=ja saki:=pa nu[ma]ti?

断定疑問詞；あなたはなにを飲む？ [vva nau=ju numati]?

推量；あいつはこの酒を飲むかなあ。 kare:] unu saki:=[pa] num=tu s]=pe:m [i]ra:.

推量疑問詞；あいつはどんな酒を飲むかなあ。 kare:] naupasi=nu saki:=[tu] nu]m=ka [i]ra:.

2.2.3 うたがい

疑問詞なし；あいつはきょうは酒を飲むかなあ。 kare: ki:=ja saki:=[pa:] num=tu s]=pe:m.

疑問詞あり；あいつはきょうはなにを飲むかなあ。 kare:] ki:=[ja nau=ju=tu nu]m=[ka i]ra:.

2.2.4 意志

疑問詞なし；疲れたから水を飲もう。 pu[kari]kare: mi[k₁] numa.

選択一；ビールを飲もうかな、酒を飲もうかな。 pi:ru:] numa[ti]=pe:m. [saki:] numa[ti]=pe:m.

選択肯否；きょうも飲もうかな、やめよう（飲むまい）かな。 ki:=mai] numa[ti]=pe:m.
[numate:N]=pe:m.

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうかな。 ki:=[ja] nau=ju=tu numati=ka [i]ra:.

2.2.5 勧誘

疑問詞なし；飲もうかねえ。 numa[ti]=pe:m.

選択一；あなた、ビールを飲もうか。酒を飲もうか。 vva pi:ru: numa]ti. [saki: numa]ti.

（瑞光ではなく、）菊の露を飲もうかねえ。 k'likunu]cuju:=[tu] numa[ti]=pe:m.

選択肯否；きょうは飲もうか。飲むのをやめようか。 ki:=ja] numa[ti]=pe:m. nu[mate:N]=pe:m.

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうか。 ki:=ja nau=ju numati]=ka [i]ra:.

2.2.6 すすめ

もっと飲んだら？ Nma[pi] numi.

2.2.7 依頼

これをあなたが飲んで。 ui=[pa:] vva]=[ka] numi.

2.2.8 命令

早く飲め。 pe:pe:] numi.

2.2.9 ベシ由来形の意味用法と接続について

大神島方言では池間島方言と同様、疑問詞のない推量、うたがい、意志、勧誘の全般にわたって使用される。=pe:mが使用されるが、この m も m 語尾形の m 語尾のなごりとみられるものである。このあとに終助辞は不要である。はたらきかけでは意志=勧誘形の numati に接続し、のべたて非過去では動詞のばあい一人称では numati、三人称では分析形 num=tu su に接続している。

2. 3 宮古島^{ひきまつ}久松方言

2.3.1 つたえ

断定；太郎はきょうはビールを飲むよ。 taro:]=ja [kju:]=ja bi:ru:=[du] num.

推量；きょうはたぶん太郎もビールを飲むと思うよ。 kju:]=ja [tabuN] taro:=[mai] bi:ru:=[du num]=bja: [ja:.

2.3.2 たずね

断定；お茶を飲む？ cja:]=ju nu[madi(=na)?

断定疑問詞；あなたはなにを飲む？ vva [no:]=ju]=ga nu[madi?

推量；太郎はこの酒を飲むだろうか？ taro:]=ja [unu s!akju:] =ba [num s!u]=pe: [ja:?

推量疑問詞；太郎はどんな酒を飲むだろうか？ taro:]=ja [no:basji=nu s!akju:] =ga [numga:]ra [ja:?

2.3.3 うたがい

疑問詞なし；太郎は(酒を)飲むかなあ。 [taro:] =ja [s!akju:] =ba [num] gamata=be: [ja: / ta[ro:] =ja [num] =be: [ja:.

疑問詞あり；きょうは太郎はなにを飲むかなあ。 kju:] =ja [taro:] =ja [no:]=ju]=ga [nuM=ga:]ra [ja:.

2.3.4 意志

疑問詞なし；のどがかわいたからお茶を飲もう。 nu[du=nu ka:ra]ki uba cja:=[ju] nu[ma:.

もう帰ろうかな。 N]nja i[kadi]=be: [ja:.

選択択一；ビールを飲もうかな、泡盛を飲もうかな。 bi:ru:] nu[madi=be: ja: s!aki=u] nu[madi=be: ja:.

選択肯否；きょうは飲もうかな、やめよう（飲むまい）かな。 kju:] =ja nu[madi=be: ja:]. nu[ma:Nma=be: ja:.

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうかな。 kju:] =ja [no:]=ju]=ga nu[madi=ga:]ra [ja:.

2.3.5 勧誘

疑問詞なし；さあそろそろ飲もう。 za:]i Nnja nu[madi.

選択択一；ビールから飲もうか。 bi:ru=ka]ra nu[madi.

選択肯否；きょうも飲もうか、飲まないでおこうか。 kju:]=ma]i nu[ma: ja:]. nu[madana]sji u[ka: ja:.

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうか。 kju:]=ja no:]=ju]=ga numadi.

2.3.6 すすめ

もっと飲んだら？ N[naqpi]l numi:.

2.3.7 依頼

これ飲んで。 uri numi.

2.3.8 命令

早く飲め。 pe:be:]=ti nu[mi.

2.3.9 ベシ由来形の意味用法と接続について

久松方言では疑問詞のない推量、うたがい、意志の全般にわたって使用され、勧誘の用法はみられない。=bja:、=be:が使用されているが、=bja:は1例のみでほかは=be:である。この方言ではm語尾は消滅している。あとには終助辞 ja:をとまなう。はたらきかけでは意志=勧誘形の numadi に接続し、のべたて非過去では、動詞のばあい numadi、num や分析形 num(=du) s!u にも接続している。

2. 4 宮古島^{ぬぼる}野原方言

2. 5 来間島^{くりま}方言

2.5.1 つたえ

断定；きょう太郎はビールを飲むよ。 kju:] =ja [taro] =a [bi:] ru =o numa[di:].

推量；太郎はきのう酒を飲んだと思うよ。 taro:] =ja [cuno:] s!a[ki] =u =ba [numi =du] =bja: [i:].

2.5.2 たずね

断定；あなた、お茶を飲む？ 飲まない？ vva [cja:] =ju numa[di:]? nu[ma]dja:[N]?

断定疑問詞；あなたはなにを飲む？ vva [no:] =ju =ga numa[di:]?

推量；太郎はこの酒を飲むだろうか？ taro:] =ja [kono s!ake] =u =ba [num] =du s!u =pja: [i:]?

推量疑問詞；太郎はきょうはどんな酒を飲むだろうか？ taro:] =ja [kju:] =ja [no:] sji =nu s!a[ki] =u =ga [numadi] =garai [ra:]?

2.5.3 うたがい

疑問詞なし；太郎はきょうは酒を飲むかなあ。 taro:] =ja [kju:] =ja s!a[ki] =u =ba [nuM =du su] =bja: [i:].

疑問詞あり；太郎はきょうなにを飲むかなあ。 taro:] =ja [kju:] =ja [no:] =ju =ga [numadi] =garai [ra:].

2.5.4 意志

疑問詞なし；のどがかわいているからお茶を飲もう。 nudu:] ka:ki uriba [cja:] =ju [numa:].

暗くなったから、そろそろ帰ろう。 h!uhwahu nariba [ja:] =N]ke: {[ika: / [ikadi:]. }

選択一；泡盛を飲もうかな、ビールを飲もうかな。 s!ake =ju [nu]madi =bja: [i:. bi:]ru: [nu]madi =bja: [i:].

選択肯否；きょうは飲もうかな、飲まないでいようかな。 kju:] =ja [numadi] =bja: [i:. numaN]uradi =bja: [i:].

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうかな。 kju:] =ja [no:] =ju =ga numadi =gara [i:].

2.5.5 勧誘

疑問詞なし；そろそろ飲もう。 cjiN]nja nu[ma.

そろそろ帰ろうか。 cjiN]nja [ja:] =N]ke: (ikadi:). (述語までいわないほうが自然か)

選択択一；ビールを飲もうか、泡盛を飲もうか。 bi:ru: numa[di, s!aki]=u numa[di.

選択肯否；きょうは飲もうか、やめようか。 kju:]=ja numa[di], nu[ma]dja:[N.

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうか。 kju:]=ja [no:]=ju=ga numadi:.

2.5.6 すすめ

もっと飲んだら？～飲めば？ N[nja]hwi nu[me.

2.5.7 依頼

私のかわりに飲んで。 ba=ga] dje:=ju [numi.

2.5.8 命令

早く飲め。 pja:]kari [numi:.

2.5.9 ベン由来形の意味用法と接続について

来間島方言では疑問詞のない推量、うたがい、意志の全般にわたって使用され、久松と同様、勧誘の用法はみられない。=bjɑ:が使用され、あとに終助辞 i:をともなうのを基本とする。m 語尾は消滅している。はたらきかけでは意志=勧誘形の numadi に接続し、のべたて非過去では、動詞のばあい分析形 num=du su に接続している。のべたての numadi=bjɑ:は、データにはみられなかったが、=bjɑ:と類似の接辞を使用した numadi]=garai [ra:がみられるので、使用される可能性はあるだろう。分析形の su の母音が無声化すると=bjɑ:も=pjɑ:に変化する。

2. 6 宮古島^{しんざと}新里方言

2. 7 多良間島方言

2.7.1 つたえ

断定；きょうは太郎はビールを飲む。 kju:]=ja taro:]=ja bi:ru: num.

(あのとき見たのどれだった？の答え) これだ(つた)よ。 kul=ge:rai. / kul=be:m. / kul=du atal=ge:rai. / kul=du atal=be:m.

推量；(太郎はいない？に答えて) いると思うよ。 bul {pazi / bul ge:rai / bul=be:m}.

(太郎はいない？に答えて) もういないと思うよ。 mme bura:n {pazi / =ge:rai / =be:m}.

太郎はだれかと酒を飲んでいるんだろう。 taro:]=ja taugara=tu sjaki=u numi:l{=ge:rai / =be:m}.

2.7.2 たずね

断定；太郎はいま家にいる(かな)？ taro:]=ja nama ja:=n=du {bul=[ge:rai / bu[l / bul=be:m]?

そのお菓子はおいしい(かな)？ unu ka:së: {mmasja:[l / mmasja:l=ge:rai / mmasja:l=be:m]?

断定疑問詞；あなたはなにを飲む？ vva: nu:]=ju=ga {numazi: / num=be:m / num=ge:rai}?

香典はいくら包むの？ sju:ko:dzin=ja isika=ga {tsutsumadzi: (相手の意図をたずねる) / tsutsum=be:m (一般的な相場を軽くたずねる。答えは必須ではない) }?

あなたはビールは何本買ったの？ vva: bi:ro: nambon=ga {kau[tal (ふつうのたずね) / kautal=be:m (婉曲なたずねで、答えは必須でない) }?

どれがいちばんおいしかった？ ndi=ga=ga de:n {mmasja:[tal / mmasja:tal=be:m / mmasja:tal=gana: / mmasja:tal=ge:rai]}?

(あのとき見たの) どれ(だった)? ndi=ga {atal=ga / atal=ge:rai / atal=be:m}?

推量；太郎はこの酒を飲むだろうか？ taro:=ja kunu sjaki=u {num=ge:rai. / num=be:m }?

推量疑問詞；太郎はどんな酒を飲むだろうか？ taro:=ja {nubasji:=nu (酒の種類) / ndi=nu (銘柄) } sjaki=u {num=ga=na: / num=ge:rai / num=be:m}?

2.7.3 うたがい

疑問詞なし；太郎はきょうも酒を飲まないかなあ。 taro:=ja kju:=mai sjaki=u numan=be:m.

(あのとき見たの) これだったんじゃないかなあ。 kul=du {atal=ge:rai / atal=be:m / atal=na:}.

疑問詞あり；(このまえ) いつ雨 降ったかなあ。 itsi=ga ami {fultalga=na: / furi uki=gana: / fultal=be:m / fultal=ge:rai / fultal=ga:}

2.7.4 意志

疑問詞なし；のどがかわいてきたからお茶 飲もう。 miziga:ki sji: kiba cja: numazi:.

選択一；泡盛を飲もうかな、ビールを飲もうかな。 sjaki=u numam:=ge:rai, bi:ru: numam:=ge:rai / sjaki-u numam:=be:m, bi:ru: numam:=be:m.

選択肯否；きょうも飲もうかな、あるいは飲まないでおこうかな。 kju:=mai numam:=ge:rai, me:ta numan buran=ge:rai.

疑問詞あり；きょうはどこ(の)を飲もうかな。 kju:=ja ndiu(=ga) numazi:(=ga:).

2.7.5 勧誘

疑問詞なし；さあもう酒を飲もう。 zjo: mme {num sukaki / numa}.

(選択一；まずはビールが良いか？ sjadari:=ja bi:ru=du wa:[ti?])

選択肯否；きょうは酒 飲もうか、きょうはやめようか。 kju:=ja sjaki numam:, kju:=ja jamim:=na. (jamim:は意味的には否定的だが、語形としては肯定形である。)

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうか。 kju:=ja {nu:=ju=ga / ndi=u=ga (酒の種類)} numazi:.

きょうは何時に帰ろうか。 kju:=ja nanzi=n=ga mudurazi:.

2.7.6 すすめ

もっと飲んだら？ {mmepi / sa:ti} numada:.

2.7.7 依頼

私のかわりにこれを飲んで。 aga ka:l=n kulu: numi.

2.7.8 命令

さあ早く、飲め。 sa:ti numi.

2.7.9 ベシ由来形の意味用法と接続について

多良間方言では程度の差はあるが、疑問詞の有無と無関係にのべたてとうたがいの全般にわたって使用される。はたらきかけの用法は意志にすこしみられる程度である。=be:m が使用され、あとに終助辞は不要である。この方言では m 語尾がたもたれている。のべたて非過去では動詞のばあい、はたらきかけにはあらわれない num に接続し、はたらきかけでは意志=勧誘形のひとつである

numam:に接続している。なお、おなじく意志=勧誘形に numa、numazi:があるが、numa に=be:m は接続せず、numazi:への接続も推量の用法のばあいに限られるようである。また、宮古諸方言のいくつかとはことなり、=be:m が無声化して=pe:m であらわれることはない。

2. 8 宮古諸方言の考察

池間島と大神島は、宮古方言地域の北部に属する離島で、宮古島の久松、野原、新里、それに来間島は南部に属する。この二つの地域では勧誘の用法におけるベシ由来形のあらわれ方に明確な違いがみられる。北部の2島では勧誘のうち疑問詞のないすべての用法でベシ由来形の使用がみられるが、南部には勧誘の用法がまったくみられない。おそらくは宮古島北部から中部にかけてのどこかに、その中間地帯があると思われる。

意志の疑問詞なし選択の用法は、多良間島方言をのぞく宮古諸方言のすべての調査地点に存在する。多良間島方言では意志疑問詞なし選択のうち択一のみが使用可能である。

つたえの断定とたずねの断定、たずねの推量、意志、勧誘の疑問詞あり、それにすすめ、依頼、命令の用法は、多良間島方言をのぞく宮古諸方言のすべての調査地点で存在しない。これらの用法のうち、多良間島方言には疑問詞の有無にかかわらず、たずねの断定と推量の用法がみられる。

うたがいの疑問詞ありは、多良間島方言をのぞく宮古諸方言では新里方言にのみみられるようだが、新里方言については、疑問詞あり全体をみても、宮古のほかのすべての地点で使用されないようなので、再度確認が必要だろう。

宮古と八重山との中間に位置する多良間島方言は、ほかの宮古地域とちがった興味深い様相を呈している。すなわち、たずねやうたがいの用法で疑問詞をもつ文においてもベシ由来形が使用され、ぎゃくに、北部にみられる勧誘の用法はもちろん、宮古北部と南部にみられる意志の用法もごく限定的にしかみられない。さらに、たずねの断定やつたえの断定で、たずねでも聞き手の返事を積極的にもとめなかつたり、つたえでも聞き手の反応を期待せず独話的だったり、より婉曲的な用法ではあるにせよ、断定としてのあきらかな使用がみとめられる。そのようなたずね断定の例をおぎなしておく。

・あなたはなにを飲む？ vva: nu:=ju=ga {numazi: / num=be:m / num=ge:rai}?

・どれがいちばんおいしかった？ ndi=ga=ga de:n {mmasja:tal / mmasja:tal=be:m / mmasja:tal=gana: / mmasja:tal=ge:rai}?

この2例で、ベシ由来形はたとえば聞き手が幼児などの場合、つまり一方的にかたりかけるような場合であれば自然に使用される。

多良間島では、疑問詞の有無にかかわらない推量やうたがいの用法に収束（意志離れ）しながらも、一方で断定（の周辺）にまで使用範囲を拡大しつつあるようにみえる。とりわけ、<2.7.1 つたえ>の2例目後半で kul=du atal=be:m のように=du 強調辞と=be:m が共起している点など、=be:m の断定寄りのあらわれとみてよいだろう。

ベシ由来形の形式をみると、北部の2島と多良間島に、宮古諸方言の述語形式にあらわれる m 語

尾形の名残とみられる η (池間島)、 m (大神島と多良間島) がたもたれているが、それ以外の地区では m 語尾がすりきれたとみられる $bja:$ や $be:$ (および、これの無声化した $pja:$ 、 $pe:$) であられる。

今回調査した範囲では、 m 語尾形のなごりは宮古島の内部ではなく周辺の離島だけで確認された。先行研究でみたように、ネフスキー(1926)は宮古島中心部の平良の例として m 語尾形とみられる $b^f a:\eta$ 、 $b^f a:m$ をあげるが、『言語学大事典』(1989)の平良の例では $numbja:$ となっている。これがそのまま平良方言の新旧に対応するのかどうか、宮古島中北部の調査が必要である。また、富浜定吉(2013)は伊良部島方言に「びゃー」と「びゃーん」があるとしているが、後者は m 語尾形のなごりとみていいとしても、前者はすべて引用形式にあらわれているので、この2形がおなじ資格で共存しているとはいえず、冒頭でふれた敬意の有無にかかわる「与儀のあげる2形」には該当しない。おなじく富浜定吉(2013)のあげる「びゃーんみ」の「み」は m 語尾形の m と終助辞 $i(:)$ の融合したものだろう。

ベシ由来形の接続については、7地点のうち4地点では推量・うたがいと意志・勧誘とで動詞本体の語形がことになっているが、3地点では意志・勧誘とおなじ語形 $numadi$ が推量・うたがいでも使用されている。その分布状況にもとくに特徴はみられない。共通するのは、ストレートな意志や勧誘に使用される語形 $numa$ がベシ由来形とは共起しないという点である。

3. 西表島方言の使用実態

3.1 ^{そない} 祖納方言

3.1.1 つたえ

断定；きのう太郎来たよ。 $k!inu$ $taro:$ $[ki\ s!i]ta=ra[:]$.

推量；それなら、あした太郎来るんじゃないかな。 $aq[ka]ra\ a[ca\ taro: [ki:] su=[be]:]$. (相手の話をうけて。)

3.1.2 たずね

断定；あした太郎も来る？ $a[ca\ taro:=[miN\ [kjuN]=na?$

断定疑問詞；あなたはなにを飲む？ $u!ra\ nu:=[du]\ nu[mja]:?$

推量；あした太郎も来るだろう？ $a[ca\ taro:=[miN]\ ki:] su=[sa]:?$

推量疑問詞；あしたはだれが来るだろう？ $a[ca\ ta:=du\ [kju:=be]:?$

3.1.3 うたがい

疑問詞なし；あした太郎来ないんじゃないかな。 $a[ca\ taro: [kuN=be]:]$.

疑問詞あり；(このまえ) いつ晴れたかなあ。 $ici\ p!ari[da=be]:]$.

3.1.4 意志

疑問詞なし；のどがかわいたから、なにか飲もうかな。 $nu[du]\ kareri[ki\ nuq]=ka\ nu[mu=be]:]$.

選択択一；ビール飲もうかな、泡盛飲もうかな。 $bi:ru\ nu[mube]:\ s!aki=du\ nu[mube]:]$.

選択肯否；飲もうかな、やめよう(飲むまい)かな。 $nu[mu=be]:\ nu[maN=be]:]$.

疑問詞あり；きょうはなにを飲もうかな。 kju:[me] nu:[du] nu[mu=be]:.

3.1.5 勧誘

疑問詞なし；そろそろ酒を飲もう。 sorosoro nu[ma: [ra:.

選択択一；ビール飲もうか、泡盛飲もうか。 bi:ru=[du] nu[muN]=na. s!aki=[du] nu[muN]=na.

選択肯否；きょう飲もうか？ どうする？ kju: numa[riN]=na? [nu:] sja:?

疑問詞あり；きょうなに飲もうか。 kju:] nu:[du] numari[rja]:.

3.1.6 すすめ

もっと飲んだら？ meheN] {nu[mi]:. / nu[mja]:. }

3.1.7 依頼

もっと飲んで。 meheN] nu[mi]:. / nu[mja]:.

3.1.8 命令

早く飲め。 pai[sa] nu[mi]:.

3.1.9 ベシ由来形の意味用法と接続について

祖納方言では疑問詞の有無と無関係に推量、うたがい、意志の用法がみられ、勧誘はみられない。
=be:が使用され、あとに終助辞は不要である。八重山諸方言には m 語尾形はみられない。はたらき
かけでは numu に接続し、宮古諸方言のいくつかのように意志=勧誘形に接続することはない。の
べたて非過去では動詞のばあい numu にも接続する（来るだろう kju:=be:）が、分析形 numi su（来
るだろう ki: su=be:）のほうがふつうのようである。積極的に推量や意志の意味で使用するとい
よりも、あいての発話をうけてそれに同意するというような消極的な用法であらわれやすい。

3. 2 ^{ふなうき}船浮方言

3.2.1 つたえ

断定；わたしは先に飲むよ。 ba[nu:] s!itari nu[muN]=do:.

（飲むかときかれて）うん、飲むよ。 N]: nu[mi]=ga:.

推量；気分がいいから飲むんじゃないかな。 k!imu] masiburi[ki] nu[mi] su=[be]:.

そうだねえ、飲むんじゃないかな。 a!si=[ra]: nu[mi] su=[be]:. (そばできいていて、話にわり
こむときのいい方。)

飲んだんじゃないかな。 numa[daN]=ka=[ja]:.

飲まないでいたと思うよ。 numaN=[du] buda hazu=do[:.

3.2.2 たずね

断定；あなた、きょう飲む？ ura [kju:] nu[muN]=na?

推量；あの人も飲んだでしょ？ unu plituN] numada=[so]:?

きのうあなたも飲んだでしょ？ k!inu] ura=N nu[mis!i]ta=[sa]:?

3.2.3 うたがい

疑問詞なし；きょう飲んだかなあ。 kju:] nu[mi s!i]ta=[be]:.

ここで飲んでいるんじゃないかな。 kwaN=du] nu[mi] bu=[be]:.

疑問詞あり；どこで飲んでいるのかな。 za:=na=du] nu[mi] bu=[be]:.

3.2.4 意志

疑問詞なし；きょう飲もうかな。 kju:] nu[mu=be]:.

飲まないでいよう。 nu[mana] bu=[be]:.

選択一；どれがいいかな。これを飲もうかな。あれを飲もうかな。 doro=[du] masiq=ka [ja]:.

k!uri nu[mu=be]:. k!ari(=du) nu[mu=be]:.

選択可否；飲もうかな。やめよう（飲むまい）かな。 nu[muq]=ka [ja]:. nu[maN=be]:.

3.2.5 勧誘

疑問詞なし；いっしょに飲もう。 maNzuN nu[ma:.

>> そうだねえ、いっしょに飲もうかねえ。 a]si=[ra]: maNzuN nu[mu=be]:. (先手発言ではなく、それをうけた発言にあらわれる。)

疑問詞あり；どれを飲もうかねえ。 zarɔ=[du] nu[muq]=ka [ja]:.

>> そうだねえ、どれを飲もうかねえ。 a]si=[ra]: zarɔ=[du] nu[mu=be]:. (先手発言ではなく、それをうけた発言にあらわれる。)

3.2.6 すずめ (未調査)、3.2.7 依頼 (未調査)、3.2.8 命令 (未調査)

3.2.9 ベシ由来形の意味用法と接続について

船浮方言ではつたえ推量とうたがい、それに意志の疑問詞なし、勧誘の一部に用法がみられる。=be:が使用され、あとに終助辞は不要である。はたらきかけでは numu に接続し、祖納方言と同様に意志=勧誘形に接続することはない。のべたて非過去では動詞のばあい分析形 numi su に接続する。祖納と同様に、積極的に推量や意志の意味で使用するというよりも、あいての発話をうけてそれに同意するという消極的な用法であらわれやすい。

3. 3 西表島方言の考察

祖納地区、船浮地区は西表島の北西部に位置する。祖納から4キロほど先の白浜までは路線バスがおっているが、船浮には白浜から船になる。両地区におけるベシ由来形は、うたがいと意志の用法が基本のように見える。たずねでは祖納に推量の用法がみられるが、船浮では確認できず、勧誘では船浮にのみ一部の用法がみられる。両地区に共通するのはうたがい全般と意志の疑問詞なしの用法である。また、先手の発言ではなく、聞き手の発言やその場の話題をうけて発言するときに使用されやすい、という特徴もこの両地区に共通している。

八重山諸方言のなかで今回調査したのは石垣島（四箇）、西表島祖納、同・船浮、同・干立、鳩間島、^{こはま}小浜島、^{あらぐすく}新城島、竹富島、黒島、^{はてるま}波照間島であるが、西表島の3地区以外ではベシ由来形を確認することができなかった。八重山諸島で調査票調査をしていない有人の島は与那国島のみであるが、ベシ由来形の有無のみを与那国島在住のかたに確認した結果では、与那国島でも使用されないとのことである。

4. 南琉球方言におけるベシ由来形のまとめ

南琉球方言においてベシ由来形は別表のように分布する。

表の左から右は、おおよそ北から南にならべてある。表の最下段にはベシ由来形に相当する形態素と、それが使用される際にほぼ義務的に出現する終助辞をあげた。以下、宮古と西表の全体にわたって分布状況や特徴を整理する。

○つたえ推量とうたがい疑問詞なしの用法は、宮古と西表の調査地点全体にみられる。

○意志の疑問詞なし選択の用法は、多良間島をのぞくすべての地点にみられる。意志の疑問詞なし選択でない用法は多良間島と宮古島新里にだけみられないが、新里については再調査の必要があるかもしれない。

○たずね推量疑問詞なしの用法が宮古の全調査地点に存在する点に関して、西表島祖納方言ではうたがいの文がたずね推量疑問詞なしにも使用される（△で表示）が、うたがいの積極的なたずねの用法でもこのような語形が使用されるかについてはあらためて確認が必要である。

○接続については、宮古も西表も、はたらきかけとそれ以外で接続の相手がおなじではない。宮古でははたらきかけに使用されるのは、意志形 *numadi*=（多良間以外）、勧誘形 *numam:*=（多良間）のみで、のべたてやうたがいには叙述形 *nuN*=などが基本であるが、地域によっては人称によって意志形 *numadi*=も使用される。西表でも、はたらきかけに使用されるのは叙述の総合形 *numu*=のみで、のべたてやうたがいには分析形 *numi su*=を基本としながら総合形 *numu*=も使用される。

○西表島では船浮方言に勧誘の疑問詞ありとなしの用法がみられるが、これはどちらも、さきに勧誘をうけて、「そうだねえ、それじゃあ～しようかねえ」とこたえる用法にかぎられるので、積極的な勧誘とはことなる。同様に、つたえ推量の用法も、二人の話に「そうだねえ、それなら～じゃないかねえ」とわりこむもので、そのような受け手の場面に使用されやすいようである。こうした使用の傾向はおなじ西表の祖納方言の話者からもえられていて、宮古諸方言にはない特徴として注目してよい。宮古諸方言との関係でいえば、西表方言にみられるこうしたある種の消極性はモーダルな意味の後退、弱化であり、そこに西表方言と宮古諸方言の新旧の関係をみることができそうである。そして、西表をのぞく八重山地域ではベシ由来形自体の使用が消滅した。

○宮古と八重山のほぼ中間に位置する多良間島は、一般には宮古方言圏に属するとされているが、ベシ由来形に関するかぎり、宮古方言との共通点も西表方言との共通点もみられ、この点では中間的である。一方で、調査した全地点のなかで多良間島方言だけにみられる特徴もみられる。それは、調査地点全体にみられる意志の用法がきわめて限定的である点、そしてたずね断定の用法はもちろん、つたえの断定の用法にまで意味の範囲を広げている点である。これが、意志=勧誘離れをおこしてたずねやうたがいに中軸をうつしながら、さらに断定の意味範囲をせばめようとする傾向であるとしたら、たいへん興味深い。

5. 東日本諸方言との比較

以下では、東日本方言のベシ由来形を概観する。東北方言の例として山形南陽方言、東日本方言の古層をとどめる例として八丈方言、そして八丈島のすぐ北に位置する御蔵島方言をとりあげる。

南陽方言ではつたえの推量、たずねの推量、うたがい、それにもっとも単純な意志と勧誘に使用される。おなじ意志や勧誘でも、選択的な用法や疑問詞のある用法には使用されず、南琉球諸方言に選択的な用法がみられるのと対照的である。また、接続も、のべたて、うたがい、はたらきかけにかかわらず、おなじノム（のべたてとうたがいにはテンス対立あり）に接続する。この方言にはアクセント対立がないが、イントネーションによってさまざまな意味を区別する。

伊豆諸島のうち、御蔵島までは東日本諸方言と連続する使用状況をみせている。すなわち、南陽方言と同様に、つたえの推量、たずねの推量、うたがい、意志、勧誘に使用される。推量では（ダ）ンベ、意志と勧誘ではベ、であられる。以下に例をあげる。

つたえ推量

- ・シッテルダンベ。（知っているだろう。）

たずね推量

- ・イクンベカ？（行くだろうか？）
- ・センセーダンベカ？（先生だろうか？）
- ・ダレダンベ？（だれだろうか？）

意志

- ・ノムベ、ミルベ、ネルベ、オシエルベ、スルベ、クルベ
（一部の語彙ではオキベのように連用接続になる。）

勧誘

- ・ウンダゲー イクベ。（おまえの家へ行こう。）
- ・サキー クッテルベ。（先に食べていよう。）

御蔵島のすぐ南隣に八丈島があるが、ここにみられるベシ由来形はきわめて限定的である。八丈方言の推量形は基本的に上代東国方言にあらわれるナムの系統で、疑問詞の有無にかかわらず使用される。～（ダ）ロウのかたちもみられるが、これは接続するテンス形式が新しいものであることから、のちの移入形とみてよいだろう。否定非過去にはナムの系統のほかにノムメ（飲むまい）も使用される。意志はノマムの変化したものが使用され、勧誘には主として形式名詞をふくむノモゴンが使用される。意志にはノモウベというノマム＋ベシのかたちもみられるが、一般的ではないし、ベは義務的でもない。八丈方言で明確にベシ由来形があらわれるのは、当為をあらわすノムベキダラのみである。このように、八丈方言では推量にも意志や勧誘にも、ベシ由来形は浸透していない。

こうした状況を南琉球諸方言と比較すると、つぎのようにいえるだろう。東北方言のうち山形南陽方言との関係でいえば、①断定・すすめ・依頼・命令に使用されない、②意志・推量・勧誘に使用される、という基本的な枠組みで両者は共通する。一方で、意志の選択的用法は多良間島をのぞく南琉球方言にあつて南陽方言にはなく、勧誘の選択的用法は、池間島、大神島の宮古北部方言に

あって南陽方言にはない、つまり、南陽方言の意志・勧誘には、意志・勧誘の基本的な用法はあるが、その判断を保留するもちかけ的な選択的用法はない。

以上のような語形と意味の分布状況を見るかぎり、南琉球方言の当該語形はネフスキー(1926)が古代語との関係を指摘したように、東日本方言にひろがるベシ(ベ一)形と由来を一にする、と考えるのが妥当であろう。北琉球方言には当該語形がみられないが、はたしてもともとなかったものなのか、消滅してしまったのか。その一方で、東日本方言の古層をたもつ八丈方言はベシに関して、当為表現の～ベキ(ダラ)はあるものの、すぐ北の御蔵島までは推量や意志・勧誘の用法で優勢なベシ(ベ一)形がほとんどみられない。八丈方言の推量では上代東国方言の推量ナム(中央語の推量ラムに対応)に由来する語形が優勢で、ベシがいまだにその地位をえていない、ということだろう。なお、八丈方言では、意志においてはノナムに由来する語形が、勧誘においては分析形をもとにした新しい語形が使用されている。

南琉球方言のこれらの語形がベシ由来形であるとするならば、本土方言から南琉球方言への「飛び火的」な分布はおそらく考えにくいだろうから、意志・推量の用法には北琉球方言にも、したがってそのさきの西日本諸方言にも、かつてはひろくベシ由来形が存在していた段階があり、西日本から北琉球ではどの段階かでベシをすててしまった、という圏論的な解釈の妥当性が高くなる。

べつの視点からもう一点、古代語のベシは語形変化をしていたが、南琉球のベシ由来形はムード助辞化していて語形変化することはないし、後続するのも特定の終助辞にかぎられる。東日本方言でも助辞化はすすんでいるが、たとえば南陽方言では接続形にノムベガラ(飲むだろうから)、ノムベゲンド(飲むだろうけれど)、ノムベシ(飲むだろうし)があり、さらにノムベモ(飲むだろうよ。飲むだろうからね。)のように、連体用法の形式名詞モノの痕跡もみられる。このように、東日本方言と比較しても、南琉球諸方言では助辞化がさらに徹底しているようである。

6. おわりに

本稿では、南琉球諸方言で使用されるベシ由来形の意味とその使用範囲についてとりあげた。この形式は宮古地域のおそらく全域と、八重山地域のうちの西表島で使用される。その文法的な意味は地域によって差があるものの、基本的に推量、意志、勧誘のなかにおさまる。これにより、当該の要素が古代語のベシに由来するものであることを確認することができた。南琉球諸方言におけるベシ由来形の存在は、この形式の圏分布を意味するもので、この事実は日本語史研究にとっても相応の意味をもつだろう。

ここではベシ由来形の空間的な広がりを取りあげたわけが、東日本諸方言とのより詳細な比較だけでなく、中央語などの時間的な広がり＝歴史的な変遷との関係についても検討が必要である。今後の課題としたい。

付記；

本稿のもととなった「宮古諸方言におけるベシ由来形の使用実態」(『琉球の方言』39号 2015.3)

pp.141-164 下地賀代子と共著) は 2014/07/05 に沖縄言語研究センター総会・研究発表会で本科研の共同研究者である下地賀代子(沖縄国際大学)と共同発表した「宮古諸方言におけるベシ由来形の使用実態」をもとに、その後のデータ等を追加し加筆したものである。

上記の発表に対し出席者から、宮古方言の当該形態素はベシやベキからの直接の変化は困難であるので、ベシに由来する *be* あるいは *beri* に、*ari・an・am* が付属したものの *m* 語尾形ではないか、との助言をいただいた。

発表後に、京都大学院生(当時)の白田理人氏から喜界島上嘉鉄方言について、*un k'asee mahan bee=doo*。(このお菓子は美味しいらしいよ。[人から聞いて])のように～ベーを使用する例があるとの情報をえたが、これは松本泰丈氏からの私信によればアンバイ・案配に由来する形式名詞とみられるもので、ほかの奄美諸方言にも存在する。この形式名詞には、伝聞情報などにもとづいて推測する用法はあるが、意志・勧誘の用法はみられない。その後の白田氏からの調査情報で、喜界島の志戸桶集落と佐手久集落で、*khjun ambee=doo*。(来るらしいよ。)のようにアンベーの使用も確認したとのことである。

日本語学会(2014/10/18~19)の船木礼子氏の発表「高知方言にみる推量表現形式のバリエーションと機能の変化」で高知方言の推量形式の世代による相違の例が紹介された。それによると、高齢者層のラム推量の形式(コールロー;凍るだろう)がより明瞭な推量の用法で使用され、若年者層のデアロウ推量の形式(コールジャオ・コールヤロ)が相手の発言をうけた、より消極的な推量に使用されるとある。ムード形式がそのモーダルな意味の明瞭さをうしない、べつの形式におきかえられるといった例には、たとえば、古代語の敬語の命令形が命令の意味で使用されなくなり、依頼の形式がそれにおきかわるといった例がある。高知市方言の例もそれが世代差にあらわれたとみてよく、たいへん興味深い。既述したように、西表方言にみられた「相手の発言をうけて」という推量の消極的な使用の傾向も、より積極的に推量をあらわす宮古諸方言と比較すると、より新しい用法の可能性がある。一般に宮古諸方言のほうが八重山諸方言よりも古そうだ、という印象があるが、八重山諸方言のなかで西表方言だけがベシ由来形の痕跡をとどめているとしたら、それは八重山諸方言においては西表方言の古さのあらわれでありながら、同時に、より古い姿をたもつ宮古諸方言の未来の姿であるのかもしれない(それを確認するためには、こんご数百年ていどは宮古諸方言が継承されなければならない)。

さらに、2014年12月21~23日に実施した宮古島北部の島尻地区(湧川潔子氏)と狩俣地区(狩俣ヒデ氏、久貝則子氏)の調査結果の一部を追記する。両地区のある宮古島北部は投稿の初稿を提出した段階で未調査であった。両地区におけるベシ由来形をもつ文の意味用法の範囲は、勧誘の用法ももつ池間島や大神島と基本的に共通することを確認することができたが、両地区間の距離が3kmほどであるにもかかわらず、語形の形態にはかなりの相違があることがわかった。

大神島とのあいだを定期船(所要時間15分)がかよう島尻地区では推量・うたがい、意志・勧誘の用法を確認することができた。この地区では、池間島、大神島よび多良間島的な *m* 語尾形であ

る～bja:m (例 4) と宮古島中南部的な～bja:とが共存していて、与儀(1934)にある 2 形をもつ初の地点ということになるが、そこに与儀のいう敬意の差はみられなかった。(i: と i[ra:, 次回調査予定)

1. あの人も来るかねえ。kari=mai [ku:]zi=bja: [i:.
2. あの人もこれを食べるかなあ。kari=mai uri=u=ba hwa:]zi=bja: [i:.
3. これを買おうかな、やめよう (買うまい) かな。uri=u ka:]zi=bja:[i:, ka:]mma=bja: [i:.
4. これを食べようかな。あれを食べようかな。uri=u [hwa:]zi=bja:m i[ra:]. kari=u [hwa:]zi=bja:m i[ra:.
5. きょうはいっしょに飲もうかねえ。kju:]=ja ma:t!aki no[ma]zi=bja: [i:.

狩俣地区でも推量・うたがい、意志・勧誘の用法を確認することができたが、その意味をになうとみられる要素 biraN の形態がほかのどの調査地点とも類似しない点が興味深い。biraN をふくむ文の意味用法の範囲が池間島や大神島と共通することから、biraN もベシ由来形と存在動詞 (の否定形 araN か?) の融合したものとみられるが、このなかに m 語尾を保存しているかどうかはいまのところ不明である。(例 3、例 5 は狩俣氏、例 1、例 2、例 4 は久貝氏による。)

1. あいつはこの酒を飲むだろうか? karja: [unu s!aki=u=ba] nu[ma]di=bi[raN] na:?
2. あいつはもう飲まないんじゃないかな。kare]a [me]a nu[ma]N=bi[raN] na:.
3. お茶を飲もうかな。cja:=ju] nu[ma]di=bi[raN] na[:.
4. きょうも飲もうかな、<飲むまい>かな。kju:=mai] nu[ma]di=bi[raN] na:, nu[ma]daraN]=bi[raN] na:.
5. ねえ、ビールを飲もうかね。酒を飲もうかね。cja: [bi:]ru: nu[ma]di=bi[raN] na:. [s!aki=u] nu[ma]di=bi[raN] na[:.

この結果から、ベシ由来形における勧誘用法の有無の境界線は、宮古地区の調査範囲に関するかぎり、宮古島の中部と北部の中間付近にある可能性が高いことになる。

引用文献

- 『言語学大事典』(1989) 三省堂
富浜定吉(2013)『宮古伊良部方言辞典』沖縄タイムス社
ネフスキー(1926)「アヤゴの研究」(『月と不死』(1971)平凡社東洋文庫所収)
平山輝男編著(1983)『琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究』おうふう
与儀達敏(1934)「宮古島方言研究」『方言』7 春陽堂
金田章宏(2011)「八重山西表島方言のベシ由来形—周囲分布的解釈の可能性をみる—」日本語文法学会発表予稿集 (東京外大 2011.12.4)

(千葉大学 国際教育センター・人文社会科学研究所)